

今月の聖句

『神の国はあなたがたの間にあるのだ。』
ルカによる福音書 第17章21節

◎11月の予定

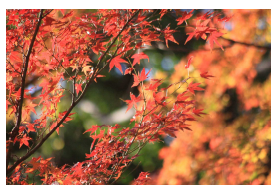
1日(木) 秋の遠足(中)
1日(木)～2日(金) 修学旅行(小6)
5日(月)～6日(火) 内部進学者願書受付
6日(火)～8日(木)

転入体験学習②(小・中)

9日(金) 授業参観・保護者会
10日(土) 関東地区私立小学校教員研修会
15日(木) 聖書教室
16日(金)・17日(土) 内部進学者入学考査
22日(木) 収穫感謝礼拝・教務委員会
23日(金)・祝 私立小学校サッカー交流会
26日(月)～28日(水) 期末試験(中)
28日(水) ニコニコランチ
29日(木) 教職員協議会

◎12月の予定

1日(土) 学校説明会③
3日(月) むかえようクリスマス



運動会
2018

元気!やる気!!本気!!!

〈今月の行事から〉

☆授業参観・保護者会 9日(金)

各学期に1回、児童生徒の学習の様子を保護者の方に参観していただいています。小学6年、中学3年は修学旅行の報告もする予定です。

☆収穫感謝礼拝 15日(木)

神様のお恵みに感謝の気持ちを込め、お祈りします。毎年、児童生徒の家庭から果物や野菜が持ちよられ、たくさん祭壇にさげられます。

☆私立小学校サッカー交流会

23日(金・祝)

森村学園初等部にてサッカー交流会が行われます。運動クラブの児童が日頃の練習の成果を発揮し、思い切ってプレーする姿は非常に楽しみです。

☆ニコニコランチ 28日(水)

小学生と中学生が縦割り班に分かれ、そして教職員も一緒に給食を頂きます。楽しいご飯のあとは班対抗でゲームを行います。全員が楽しく笑顔になれる行事です。

☆むかえようクリスマス 12月3日(月)

地域の方々をお招きし、共にクリスマスを待ち望みます。毎年、きれいな歌声や演奏が海の見えるホールに響き渡ります。ぜひ、お越しください。

相手の気持がわかる子に

学園長 小川 正 夫

前回の通信で、自分自身の心の動き、怒りや喜びの感情を自分自身で意識できること、そして、自分の感情を制御する知恵、他人の感情を感じ取り、受けとめ、自分に置き換えることができれば、人間関係での心遣いを身に着けることができる様になるという様な事を書きました。ここでは人の気持ちが変わる人に育つにはということを考えてみます。

小学校の礼拝の中で、子ども達にこんな問いかけをしたことがあります。『しい』が付く言葉をどのくらい知っていますか「子ども達の手が沢山あがりました。『優しい、厳しい、美味しい、嬉しい、楽しい、悲しい、寂しい、貧しい、悔しい、憎らしい、ややこしい、苦しい、涼しい、羨ましい、清々しい、素晴らしい、可愛らしい、子どもらしい、男らしい、弱弱しい、汚らしい、痛々しい、いやらしい、図々しい、陰しい、白々しい、忙しい、晴れ晴れしい、凜々しい、恐ろしい」と、予想したより良く知っていました。『しい』で表す心の動き、感動を沢山経験することが好ましいでしょう。

更に、ここに挙げた言葉に「ね」の字をつけてみるとどうなるでしょうか、「優しいね」「美味しいね」「素晴らしいね」「悲しいね」「楽しいね」というように相手と言葉を交わ

すことができれば、自分の感情と相手の感情を分かち合うことができます。つまり共感的理解の入り口に立つことができます。

幼稚園から小学校に入る頃には、言葉が無くとも相手の表情から相手の心の動きを感じとれるようになると思われます。

顔の表情、視線、声の強さ、声の抑揚、動作から、相手の基本的な感情を読み取ることができるようです。自分に向けられたものでなくとも、友達や他人に向けられたものでも敏感に受け止めます。友達が褒められていれば、自分も嬉しい気持ちになり、自分も褒められたいと思いますし、敏感な子は、友達が厳しく注意されたり、強く叱られたりすると辛くなり泣き出したりする子がいたりします。

両親が強い言葉のやり取りをしていると、喧嘩をしているのかと、動揺して恐ろしい気持ちになる子もいるようです。

つまり他の人の視点に立つ能力取得の始まりです。子ども達が学校生活以外に、外で遊ぶ機会が少なくなり、ほとんどが母親やゲームが対象になっっているような近頃では、絵本や物語、伝記などを讀んだり、読み聞かせをしたりすることは心の成長に大切な経験になります。生き物を飼育することなども大きな力になります。つまり、観えていない相手の気持ちを感じ取ったり、現実にはあり得ない空想の世界に自分をおいて、様々な相手を擬人化して間接的に経験する中で、自分の心の動きや他者の心情を意識的に疑似体験してみ

ることに大きく役立ちます。

聖書に、「自分を愛するように、隣人を愛しなさい」とありますが、自分の心の動きを意識し相手の心の動きを受けとめることができれば、相手を思いやる心が生まれます。

瀬戸内寂聴さんが、東北地方の大地震、大津波の被災地に立って、遠くに夕陽を見ながら「私には、何もできない無力さを感じる」と呟いていましたが、辻説法で被災者に『もう懲りた』という思いで自分本位になるのではなく、お互いに『亡己利他』(もうこりた)の精神、お互いに自分のことより他人の為に力になるうという心を持ちましょう。そうすれば勇気が湧いてくる」と説いていたことを思い出します。

聖ステパノ学園で生活している子ども達や教職員はお互いに優しい心を持っています。

神様は誰にでも優しい心を備えておられますが、それを相手に伝え、どう手を差し伸べたらよいか、どう学んだらよいかと言えば、身近にいる大人達、特に教育に携わる教師の子ども達に対する想い、好ましい立居振る舞いから学び、自然に身に着けて行くように思います。かつて勤めていた学校は一八学級七百二十名の児童がおりましたが、経験豊かな養護教諭が私に、「保健室に来る子どもを見ただけで、担任の先生がすぐ判る」と言っていたことがあります。教師は子ども達に影響を与え続けていく仕事をしているのですね。

じっくり待つ力

教諭 高橋 謙二

『絶対はない』と、よく子どもたちに話しますが、これは、私が学生時代から教職に就くまで、新宿で働いていた時の上司の言葉でした。とても厳しい方でしたが、温かく正直で義理堅い人間味のある方でした。今でも、現役で活躍されていますが、当時から本当に良く面倒を見て頂き、助けてもらいました。今でもお付き合いをさせて頂いています。その人の口癖が『世の中に絶対はないぞ、特に人との関係の中で、自分は間違っていないと思うな、自分自身を良く見てみる』という言葉でした。また、必ず『大人の社会はずるいぞ、認めないから、気をつけろ』という言葉でした。今になって本当にその言葉の意味や大切さがよく判るような気がします。

先日、数年前に卒業をした卒業生が学校を訪れました。その生徒は、真面目で、善し悪しも理解でき、話ができる生徒だったのですが、聖ステパノ学園がキリスト教の学校という事を確認して入学してきたにもかかわらず礼拝が苦手で、なかなか礼拝に素直に参加することができなくなりました。普段の学校生活の中でも、対教師・学校に対しても批判が多く、卒業する時も、学校の事をよく言わず、思わずに卒業をしてみたと感じていました。ここ数年、私自身ずつと気になっていた生徒の一人でしたが、大学へ通っているという事を噂では聞いていました。ふた月ほど前に、ひよつこりと学校を訪れました。あれだけ、絶対にこんな学校には来ないと豪語していた彼が現れ、私自身驚き、本音は戸惑いを隠しきれませんでした。先日の運動会に来ていた同期の卒業生も学校に彼が来たことにとっても驚いていました。中学校の時期ならば誰しもありますが、当時の彼も心の葛藤や悩みがあり、もがき苦しんでいたはずですが、それに親身に寄り添うことができなかったことを後悔し、もっと良い違うアプローチができたのではないかと。心のどこかで思いながら、学校生活を過ごしていました。振り返ってみると私自身に柔軟性がなく、それまでの中学校のやり方を頭から押し付けていたようにも感じています。

彼は笑顔で現れ、外見もなんとなく穏やかになり、成長したのが感じられました。驚い

たことに現在は教員を目指しており、大学で頑張っているようでした。彼は、『中学の時はなんであんなだったのだろう。色々やったな』と笑って話し、『先生たちが授業をするのも、生徒を指導するのも、大変だという事が、教員になるための勉強をしてわかった。大変だったんだな、先生たち。』というようなことを話してくれました。よく言われますが、教育というものはすぐには結果が出ない、それが実感できたひと時でした。本当に有難い一言でした。この後、彼がどのような人生を歩んでいくのかはわかりませんがとても楽しみです。

聖ステパノ学園に勤めさせて頂いたいて、27年目になりますが、自分自身は誠実に一生懸命頑張つてやっているつもりでも、気が付かないうちに生徒や保護者の方々、また、同僚の先生方にも、悲しい思いや苦しい思いをさせてしまつて、ご心配、ご迷惑をかけていることがあると思いますが、自分自身を律し日々鍛練し、様々な特性、価値観をもった子どもたちと真剣・誠実に向き合い、将来を見据えた子どもの成長をじっくり待てる精神力を身につけ、学校生活を送る事ができればと思っております。これからも、よろしくお願い致します。

最強アイテム

教諭 飯田 幸子

運動会が終わり、今年度ももう後半を迎える頃になりました。

今年は小学校三年生と一緒に学習しています。低学年の中でも三年生は活動分野や範囲が大変広がる学年で、低学年の「最上級生」としての役目も担っています。一学期の「森のおとまり」から始まり、先日の運動会でも各々が三年生としての役割を覚え、活動できた場面がたくさん見られました。その姿に大いに頼もしさを感じました。

私自身は今年は主に国語と社会を担当しています。先日の社会の授業でのことです。班で校外学習（お店訪問…いづ常さん）時の注意事項やお店での質問内容を話し合うことになりました。いつもは三班で活動していますが、その日は欠席者もあり、話し合いの人数が少ないと思った班同士が合体し、二つの班での話し合いが始まりました。「司会は…」「記録は…」「タイムキーパーは…」などという声がそれぞれ聞こえてきます。

ついこの間、国語で、「よりよいクラスを作ろう」という「役割を考えながら話し合う」という学習をしたのですが、即実践しています。

話し合いが進み、
「先生。この前の牛乳工場の見学の時のことを使ってもいいですか？」

という質問が出ます。子ども達は三週間程前に牛乳工場を見学しています。その時のことを応用してよいかと問うています。「勿論」です。子ども達が習った事や学んだ事を自分のスキルとして使いながら考え、生活していくことが何より大切なことだと考えています。国語では「こんなやり方をおすすめします」という伝えたいことに合わせて書き方を工夫しようという単元も学習したばかりです。どの教材も一回学習したからといって即体得というものではありませんが、新しい考え方ややり方にふれるというのは大人の私達でさえ大変世界が広がることです。「こんなやり方をおすすめします」では、子ども達は、自分の体験した様々なジャンルからおすすめるカードを作りました。いくつかご紹介しましょう。「Hのおすすめるおいしいカレーライスの作り方」「Kのおすすめるジェットコースターのスリルの味わい方」「Aのおすすめるクッキーの作り方」さらには、「Uのおすすめるステキなお庭の作り方」や「Hのおすすめる友だちのつくり方」といったものもあります。

自分達がそれぞれの生活体験の中から得られたことがらを簡潔にまとめ、絵や図などを入れたりしながら友達に紹介しています。これは第一段階ですので、さらに「資料」を集め、それらを効果的に使い、目的や必要に応じて工夫して書けるように育てていけるといいなと思っています。

さて、これからの時代を生きぬく子ども達にとってどんな力が最強アイテムとなるのでしょうか。考えてみましょう。

「自分でやる」「自分でやってみる」「自分でやってみようとする」…ために必要な力！を育むためには、

「自分で調べる」「自分で考える」「自分のことは自分でする」「体験する」

そのためには、

その一「基礎学力をつけること」

物事をクリエイティブ且つ論理的に思考するためには今まで以上に必要なことだと考えます。

その二「失敗をいっぱいすること」

しかし、ただの失敗ではありません。「よい失敗」＝「次にチャレンジできる失敗」です。

その三「遊ぶこと」

実際の体験を通して、学ぶことは大変有意義なことです。

子ども達の学ぶ力はとても大きくていつも驚かされますが、彼らが持っている力を更に伸ばすための最強のアイテムは「くじけず挑戦する力」でしょうか。そして、そういう彼らが、失敗することを恐れず果敢に挑戦し続けられるように、一緒に温かく見守っていきましょう。

今を見つめて

校務 飛田 裕二

今この瞬間を幸せと感じられる年齢になってきた。毎日、三食食事が出来たり、子ども達と触れ合っている時など、今まではそんな事は考えた事も無かったのに何故でしょう。

一つは、心が成長したんだと思います。これは人間にとって最も重要です。テレビのインタビューを受けている若い人達はみんな「幸せになりたい」、「お金持ちになりたい」など発言しています。

ここで一つ世界に目を向けて見ましょう。アフリカでは子どもや大人でも餓死しています。満足に食事も出来ません。それに比べて日本は食べ物で溢れている、これも幸せなんです。今置かれている状況が悪い、欲しい物が手に入らないとか嘆いていても始まらない、自分から変われないと何も変わらないのです。表面的な幸せなどは剥がれ落ちます。本当の幸せは時には自分から掴みに行かないと掴めないのです。少しの勇気が今の自分を変えてくれるのです。

そう言うっても簡単にはいきません。誰もが「あの時こうしとけば良かった」など後悔ばかりの人生になっています。それでは何も変わらないのです。一度自分を壊し、もう一回作り直していく事が出来れば、同じ失敗は繰り返しはしない。それには経験しかないと思います。経験をするには失敗をする、失敗を

するには勇気が必要です。幸せの考えはみんな違います、根本的な事は、感じる事だと思っっています。生きていると色々なチャンスが度々あります。そのチャンスを逃がさないのと、自分の手で掴みに行かないと、いつまで経っても前に進まないのです。そのチャンスで人生が百八十度変わる事もあります。自分もその一人だと思います。若い時は、自分一人で生きて行けるなどと思っていましたが、やっぱり一人では生きて行けない事を知り、深く反省をする日々です。人間は誰しも今の幸せが、永遠に続くと思っただけで生きている。でも突然幸せから不幸になったらどうしますか？

親、兄弟、友達、大切な人が居なくなったらを想像してみて下さい。経験した人にしか、分からない悲しみ、苦しみなのです。心に傷が付いた分だけ優しくなれると言いますが、これは紙一重です。どっちにも転ぶと思います。つっぱり通せるならきつとの方がいい。初めから物分かりの良い利口者じゃなかったんだから、正直で良いんじゃないか、かっこ悪くて良い、素直に正直に生きていけば必ず誰かが見ていて、手を差し延べてくれると信じています。それに気付くのが早いか遅いかは自分次第、心の成長を大切にして行きたいです。誰にでも優しく接しあいさつを忘れずに礼儀をきちんとしようと思います。子ども達はちゃんと見えています。そして大人の真似をします。ルールを守り胸を張って堂々と言

える人になり、子ども達にはそういう大人になって欲しいです。今を大切に今、今、今、相手を思いやる事は大切ですが、まず自分のために頑張る事が大切だと思います。自分の事を受け入れないと相手の事も受け入れられないそんな事も聞きます。自分のために自分のために生きてさえいけば、また何にでも生まれ変われるし、苦しみを越えたらきつと、どこかで誰かが必ず、待っててくれると思います。

私も、色々な職場を体験してきましたが、聖ステパノ学園が一番良いところだと思います。みんなが優しく接してくれて、色々な意見をもらえて、お互いを尊重してみんなが聖ステパノ学園を盛り上げようと努力しています。毎年同じ事ではなくて、何か違う事をしようとか、あれをやってみようとか担当の先生は頭を捻って会議をしています。少しでも子ども達が笑顔になるように日々考え行動しています。そうした小さな積み重ねが大切なんだと思います。

一人一人が、仲間の事を思い、困っていたら手を差し延べ助け、当たり前ですが、当たり前に出るような職場だと私は思っています。聖ステパノ学園に関係するみなさんの心が一つになる時、どこにも負けない学校が出来ると思います。苦しむ人、悩む人は少しの勇気を出し一歩前へ進みましょう。全て、今している事は将来の自分となるのです。若い時には気が付かなかったと思います。

「小学校」十月十三日（土）は、元気！やる気！！本気！！そして、活気に満ちた運動会でした。

小一 R・S

ぜんこうリレーをかつこよくはりました。あかぐみがまけました。おうえんをいっぱいしました。でも、ちよつとだけかちました。

小二 A・S

きょうは、がつこうどうんどいかいがありました。クラスのみんなでリレーに出たり、ドラえもんのダンスをおどったり、いっしょうけんめいがんばりました。うれしくて、かんどうして、ないてしまいました。



小三 U・H

今日、運動会がありました。行進は、ぼくが一番先頭です。かなりきんちようしてしまいます。ですが、堂々と出来たと思います。ぼく

には、一人だけぜったいに勝ちたい人がいます。白組ではありません。自分です。たとえ白組に負けたとしても、自分に勝つことが一つの目的です。

徒きよう走では、きせき



がおこった！！なんと一着です。練習では一着なんてムリに決まっている！！と思っていましたが：：思わず手をあげてしまいました。せんぱつりレーも自分に勝てました。ぼくにとつて、ぼくにとつて、いや、みんなにとつて、サイコーの運動会でした。

小四 R・K

今日は、運動会がありました。まず、プログラム一番「全校体操」をやりました。次に、小学生による、徒競走を

やりました。これでは、ぼくは四番でした。ぼくが一番よかったのは、八の字とびです。そして、紅白対抗リレーでは赤が勝ちました。でも優勝は、白組でした。くやしいけど、最後までがんばれてよかったです。また、来年もがんばりたいです。



小五 M・M

十月十三日土曜日、二千十八年度ステップノ学園小学校・中学校運動会がありました。

まずは、閉会式が始まりました。しっかりとやりました。徒競走は私のよそうは二位か三位だともそうしていましたが、よそうどおり三位でした。最下位じゃなくてよかったです。つな引きは、つなをよく引っぱりました。

演技のウィーア！は、うまいきました。

運動会で一番楽しかった競技は、三つあります。一つ目は、ホースリレーです。理由は、前の学校でやったからです。二つ目は、紅白対抗リレーです。理由は、リハーサルも一位で本番も一位だったのでうれしかったです。三つ目は、午前の部の最後の種目、みんなでおどろうです。曲は、USAでした。サビがうまくいって楽しかったです。

ステップノの運動会は、つかれなくて楽しかったです。来年も楽しみです。

小六 S・T

きのう運動会がありました。徒競走をやりました。ひさしぶりに一位になりました。去年より速くなったと思います。8の字とびを次にやりました。あんまりひっかかりませんでした。家に帰ったら「速かったね」と言われました。



「中学校」 放送や道具係、審判などの裏方でも支え、競技でも活躍した中学生です。彼らの作文からご紹介します。

ステパノに入って初めての運動会

中一 S・A

ついに、運動会が始まりました。ところが「すず」がおちてしまい、色々大変なことになってしまいました。ぼくにとって聖ステパノ学園に入って初めての運動会で、小さい思い出ができました。

ぼくは、徒競走で二位でしたが、ゴールした後にかっこ悪いころび方でころんでしまいました。これも思い出になりましたが、せめて、もう少しましなころび方をしたかったです。来年は良いころび方なら良いのですが、かっこ悪いころび方はしないようにしたいです。また、今年は二位でしたが、来年は一位になりたいです。

そして、ほかの競技は練習よりも上手にできたので良かったです。

来年は二年生になるので、一年生に応援団などを教えられるようにしたいです。

妹とのきずな

中二 S・A

徒競走で走っている小学生の妹を見て、相手チームなの



に思わず応援してしまった。普段妹は勝ちへの執着心を見せないが、勝ちをとりに行っている妹を見て、なんだが嬉しくなってしまう。

残念ながら結果は二位でした。しかし妹が勝ちにこだわってとった二位なので、徒競走が終わったあと妹を褒めてやりました。

小学生の徒競走の後、中学生の徒競走で走りました。僕と一緒に走る人は全員足が速いので、絶対最下位になると思いましたが、妹が走っているところを見て僕は、一位を狙うと決心しました。その結果二位をとることができました。うれしかったです。

団長

中三 S・U

団長か。運動神経もあまりない。基本的にはインドア派。そんな自分が白組の団長か。本番の直前になっても僕はそんなことを考えていた。そんなことより応援団のこの方が心配だった。なぜなら、三三七拍子を全員がカンペキにできないからだ。並ぶ時もだ。とにかく、心配だらけだった。

本番。とりあえず、午前中の競技はカンペキだ。(エール交換で言い間違えた?そんなの知らない。)白組が勝っている。このままいけばと思ったが、問題は応援団だ。準備が始ま



った。僕は学ランを着て、列を作った。みんながカンペキにできないとか不安とかそんなのどうでもいい。とにかく全力でやる。そういう気持ちで臨んだ。

結果は赤組の圧勝だった。かなり落ち込んで声が出なかった。緊張していたから何をしていたのかは覚えていない。とにかく悔しかった。

運動会の終わり、みんなが集まり点数が出るのを待つ。赤組の得点が出たあと、ついに白組の得点が出た。勝った。そう、たった三 points の差だったが、確かに勝っていた。おそらく僕は生れてはじめて無意識に友達とハイタッチをした。

「運動会で自分のこういう所が変わった。」そういうことはここでは書くつもりがない。というか、何が変わったのか自分でも良く分からない。たぶん何か成長があったり、変わった所があるのは間違いない。今は良くわからないが、高校生活、あるいはこれからの人生でその変化や成長が分かってくる、活かしてくるのだと思う。

そして最後に最も言いたいことが一つ。一緒にがんばった白組のみんな、全力で対等な勝負をしてくれた赤組のみんな、この場を借りてお礼を言いたい。そして、あの二つのトロフィーは、みんなが勝ち取ったみんなのものだ。





2018年夏、古い体育館が、その幕を閉じました。子供達はもちろん、SAにとっても思いはたくさん。毎年、卒業礼拝の日には手作りで飾って、巣立つ中3を祝ったものです。温かみのある木造の構内は、早春のお花畑のようでした。その旧体育館をめぐるお話、二回にわたってお届けします。

* * *

まずは体育館の歴史をひもとこうと、資料室の阿部昭一先生をお訪ねしました。出していた古い資料を読むほどに、○年竣工、と特定するのが案外難しいとわかりました。小学校創設は1953年ですが、その前後に、創立者の「ママちゃま」澤田美喜女史が、内外から寄付を募り、コツコツと校舎を建て増していったという経緯があるからです。そうした建物群のうちでも、旧体育館はかなり初期、52年には完成していたようです。設計をした建築家・三宅敏郎氏の記述に「體育室（既存）」と記されています。また56年に出版された小学校設置認可申請書には「遊戯場」と記載。呼び名もいろいろだったのです。

ちよつと思ひ出してください。山側に3つの両開き扉。入ると、右の板壁に真鍮のプレート。そこには「米海軍厚木航空基地の飛行士より寄付された」と記されていました。その向かいの

壁にもプレートが一枚。こちらには「この祭壇は、米国ペンシルベニア州・スクラントン夫人の寄付による。最愛の夫を追悼して」と。祭壇？学園長先生にお尋ねすると、「ああ、そこは祭壇跡。かつては十字架があり、燭台を取り付け、礼拝堂としても使われていたのです」とのお答えでした。

「ママちゃまの時代は寄付のプレートもピツカピカじゃないと叱られちゃいました」と苦笑されるのは、池澤登志美先生。63〜99年までステパノで教鞭をとられ、在りし日のママちゃまとは「お風呂で背中を流しあつた間柄」、ステパノ史の生き証人とも呼ぶべき方なのです。「山の上に講堂があり、入学や卒業礼拝、クリスマス、ママちゃまの誕生日会などをしていましたが、天候やいろんな事情があると、下の体育館を使っていましたね。小学生は入学、進級、卒業、みんな体育館でした」

1950年代のアルバムをめくると、卒業証書を手にした記念撮影など、体育館での写真がいく枚も見つかりました。肌の色も様々な子達が、みんな揃って背筋を伸ばし、制服姿もピシツと、神妙な面持ち。ママちゃまに叱られないように、でしょうか？

それにしても、とモノクロームの写真を見ながら、しみじみ思わずにいられません。70年近く前に、社会の偏見や差別に立ち向かうため、この学園は創られました。一人一人の個性、多様性を認め合うことは、まさに私達の伝統なのです（来月号に続く）。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

- 実用数学技能検定 10級 小2P・S 8級 小4S・S
- 日本漢字能力検定 10級 小2R・H、R・C
9級 小2P・S、N・I、小3H・T、小4A・M、Y・T、S・S、小6M・Y 8級 小3H・I、小4T・O、H・S、D・Y、小5S・O、小6H・N 7級 中1R・K、K・I
6級 小6E・M、N・A、K・K、中1N・I
5級 小5F・K、中1S・G、R・O、中1M・U、S・A、中2Y・I、M・I、S・N、中3H・O、R・A
4級 中2A・S 中3S・S、3級 小6S・K
準2級 S・K
- 日本水泳連盟 OWS 検定 5級 中2G・N
- 第11回 神奈川県小学生陸上競技交流大会
☆6年男子 100m H・N、Y・F ☆共通男子 800m 小6S・K、K・M ☆4年男子 100m S・K ☆共通男子 ジャベリックボール投げ R・T ☆共通女子 800m 小5H・F、☆4年女子 100m M・I、M・T ☆3年女子 80m A・I ☆共通男子 4×100m リレー 小6S・K、H・N、K・M、Y・F

第61回日本聖公会関係学校教職員協議会の参加者の皆様から、本学園のために体育館建築基金として7万9642円を献金して頂きました。謹んで感謝申し上げます。

【編集後記】

運動会、遠足、修学旅行が行われ、充実した日々を過ごしています。（K）

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒251-0033 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-611129
FAX 0463-611973

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>